話題の講義ライブ LIVE 2011

Today's Program 障害児教育方法学

RYUKOKU UNIVERSITY

龍谷大学

文学部 臨床心理学科(2012年4月開設)

6.7.Tue. at Omiya
9:00~10:30
滋野井 一博 教授

龍谷大学 文学部の魅力

人の心という複雑で繊細なテーマのもと、多様な発展を遂げてきた心理学。そのなかでも「臨床心理学」は心理学的な知識や技能を用いて、心に問題を抱える人々に対する援助や予防を行う、もっとも実践的な学問の一つだ。龍谷大学文学部に新設される臨床心理学科は、知識の提供にとどまらず、人への深い理解と思いやりを前提としたコミュニケーション力の養成にも力を注ぎ、医療・福祉・教育・宗教などの社会の幅広い分野で必要とされている「対人援助」の専門家育成を目指している。

悩める人のココロを救うため実践スタイルで“生きた知識”を習得する

今日の講義

対象学年： 文学部3年生以上。
※「障害者(児)心理学特論」として大学院生も受講する。
流れ:
各回のテーマについてグループディスカッションを行い、意見発表を通じて全体像を理解、所感をまとめる。
講義を通じて身につく力:
相互理解を深めるコミュニケーション力。障がい者(児)の基本的な理解とその対応のあり方を知る。
おもしろさ・醍醐味:
他者と向き合うことで自分を見つめ直せる点(自分探し)。主体的な問題解決力が身につく点。障がい者(児)支援の意識が自然に芽生える点。
その他、講義の雰囲気など:
学部と院の合同開講により、障がいに関する多様な価値観やその支援に対する視点と出あいやすくなる。

社会のあらゆる現場に通用する「対人援助」のスペシャリストの育成に向けて

私たちは長い人生を歩んでいく中でさまざまな問題に直面する。学校、職場、家庭、恋愛、交友など、問題が起こる場面は多岐にわたり、また、その原因やプロセスも千差万別だ。臨床心理学の役割は、そうした困難な状況下で、苦しみ傷ついた心を救うこと。

龍谷大学文学部に新設される「臨床心理学科」は、「人間の理解」という根源的なテーマのもと、開学当初から発展を遂げてきた心理学領域がルーツ。単に臨床心理学の新しい知識やノウハウを提供するだけでなく、体験型の講義や実習、学外での体験学習などを充実させ、いつ、どのような場面においても人の心に寄りそえる、「対人援助」のスペシャリストの育成を志す。

今回は3年生以上を対象とする学校・特別支援臨床の講義「障害児教育方法学」を通して、臨床心理学科の実践的な学びの実態に迫る。

発達障がいとは何か？知識を積み上げ実態に迫る

平成23年度現在、哲学科教育学専攻と大学院文学研究科教育学専攻で開講中の「障害児教育方法学」と「障害児(者)心理学特論」。来年度からは新設する臨床心理学科と大学院の臨床心理学専攻において、「障害児・者心理学」と「障害者児心理学特論」という科目名称で開講となる見込みだ。

この日も学部生、大学院生合わせて30人余りが教室に集まった。早速、担当の滋野井先生は黒板に講義の流れを書き始める。テーマは「発達障がいについて」。現時点で学生が知っていることや、イメージ、キーワードを書き出し、考えをまとめるのが第一段階。次に、各自の意見をグループセッションに持ち込み、各グループで話し合われたことを発表。最後に「本日の所感」に達するという展開が示された。やるべきことが端的にわかるので、学生たちの作業開始もスピーディだ。

ほどなく始まったグループセッションで、あるグループの意見交流に耳を傾けた。「まず、発達障がいとは何か？ というところから、知っていることやイメージを教えてください」。司会役を買って出た大学院生が持ちかけると、学部生が次々に話しだす。「知的障がいはIQの水準が一様に低いが、発達障がいはそうとは限らない」「自閉症、アスペルガー症候群、広汎性発達障がいなど、いろいろな種類があり、症状もまちまち」「人と会話がうまくできず、対人関係に支障をきたすケースが多そう」――。

各自の小さな知識が、グループセッションで大きく膨らみ、さらに次のグループ別意見発表で何倍にも膨らんでいく。滋野井先生がそれぞれのキーワードを黒板に書き足していくうちに、発達障がいの多様な側面が浮かび上がった。「このような整理が必要なのは、障がいのある本人が社会で生きていくために、その人のニーズに応じた支援の工夫をするためです。

人の心を感じ、人の心に寄り添える心のプロフェッショナルを育てる

この講義がグループセッションや意見発表など、学生主体のメニューで組み立てられている理由を滋野井先生はこう語る。一つは、「人と向き合い、自分を知ってほしいから」。集団の中にいる自分を客観的に捉える感性を養っておくことが、生身の人間を理解する、第一歩になるという。「人の心を感じ、認知し、知識を活かして思考する、臨床心理において大切なこのプロセスを体験してもらう場です」と言う。

また、「グループセッションそのものがコミュニケーション力を高め、カウンセリングの練習になる」とも。相手の意見を受け止めたり、その意見を分かち合ったり、時には話題転換を図ったりと、回を重ねるうちに心理療法に不可欠な対話のセンスが磨かれるという。そのリード役を果たす大学院生は、学部生にとって頼もしい存在だ。

滋野井先生のこだわりは、「障がい者(児)の基本的な理解とその対応のあり方を深める」という目的に到達するために、学びのプロセスを大切にすること。その中身には臨床心理全般に応用できる点も多く、この先学生がどのような進路を選んでも、必ずやどこかでよみがえり、役に立つ経験となるだろう。

さまざまな生活場面における社会との適応・不適応の差を少しでも小さくして、その人の自立に向けて生涯にわたり必要とされる有効なサポートを行っていく視点が重要となります」と、滋野井先生は締め括った。

VOICES 学生の声 of University Students

中大路 佳寿さん(後列左)
文学部 仏教学科3年
以前に教育心理学の講義で特別支援教育に触れ、もっと詳しく学びたいと思ったのがきっかけです。普段の生活で障がいのある人に接したら自分がどうすべきかを考えるようになりました。

湯田 敦子さん(後列中央)
文学部 哲学科教育学専攻3年
もともと障がい者福祉に関心があって選んだのですが、発達障がいに的を絞った内容の濃さに驚きました。将来は福祉関係の仕事に就きたいです。

田上 航さん(前列左)
文学部 哲学科教育学専攻3年
院生の先輩のサポートもあり、グループセッションに積極的に発言できるようになりました。みんなの意見をまとめた先生の板書もすごくわかりやすいです。

中島 陽大さん(前列右)
大学院 文学研究科1年
学部生から出される意見に、ハッとさせられることもしばしばで、自分の見落としが明らかになりますね。

南 幸佑さん(後列右)
文学部 哲学科教育学専攻3年
自分の勝手な思い込みに気付かされることも多く、実際に障がい者をサポートする時はそれを教訓に柔軟な対応をしたいです。

滋野井 一博 先生

京都教育大学大学院教育学研究科　修士課程修了。発達障がい児に対する心理的援助のあり方を研究テーマとし、障害児教育方法学、教育心理学演習Ⅰ・Ⅱなどの科目を担当する。

龍谷大学

文学部
経済学部
経営学部
法学部
政策学部
理工学部
社会学部
国際文化学部
短期大学部

教員数
教授 299名
准教授 110名
講師 49名

学生数
学生数 18,219名

※上記、教員数、学生数は4年制学部、短期大学部のみの人数です。

[沿革・歴史]

1639年	京都西本願寺境内に学寮が竣工され龍谷大学の歴史が始まる。
1655年	幕府の命令により学寮を破却、以後「学林」と称す。
1876年	学林を大教校と改称する。
1879年	大教校落成。　※現在の大宮キャンパス(京都市)本館など。
1922年	旧制大学令による認可を受け、龍谷大学と改称。
1949年	新制大学令による龍谷大学となり、文学部(4年制)を開設。
1950年	短期大学部開設。
1960年	深草キャンパス(京都市)開設。
1961年	経済学部を開設。
1966年	経営学部を開設。
1968年	法学部を開設。
1989年	瀬田キャンパス(大津市)開設。理工学部、社会学部開設。
1996年	国際文化学部開設。
2009年	創立370周年。
2011年	政策学部開設 龍谷ミュージアム開館。

[オープンキャンパス情報]
(各日とも10:00～16:00)
7月24日(日) 瀬田キャンパス
対象：理工・社会・国際文化学部
8月6日(土) 深草キャンパス
対象：全学部
8月7日(日) 深草キャンパス
対象：全学部
8月27日(土) 瀬田キャンパス
対象：理工・社会・国際文化学部
10月2日(日) 深草キャンパス
対象：全学部
詳細は、龍谷大学入試情報サイト(http://www.ryukoku .ac.jp/admission/)でご確認ください。

資料の請求およびお問い合せ先
〒612-8577 京都市伏見区深草塚本町 67　入試部
TEL 075-645-7887　FAX 075-645-4155
PC　http://www.ryukoku.ac.jp/admission/
携帯 http://www.ryukoku.ac.jp/admission/mobile/

資料請求は簡単！ 本紙に掲載した大学(私立大学のみ)の案内資料は、P32のハガキ、または東進のウェブサイトwww.toshin.comから請求できます。